『第二言語としての日本語の習得研究』
Acquisition of Japanese as a Second Language

投稿規定

本誌では，以下の要領で論文を一般公募します。本誌は第 27 号より紙媒体刊行 2 年後（第 28 号の場合は 2027 年 12 月）に J-Stage(https://www.jstage.jst.go.jp/)で電子版をダウンロードできるように手続きを行います。採択論文は紙媒体・電子版公開されることを前提に投稿をご検討ください。

新たな視野からの日本語習得研究の発表の場として，是非ご投稿ください。

1. 投稿資格

資格は問わない。（第二言語習得研究会は会員組織ではないので，誰でも投稿できる）

2. 投稿可能な論文

第二言語としての日本語の習得に関する論文で，未発表のもの。

かつ，人を対象とした調査・研究の場合は，十分に倫理的配慮がなされているもの。

次の論文は，未発表論文とし，本誌への投稿を受け付ける。

・他の雑誌に投稿，公刊していないもの
・学会・研究会予稿集に掲載したもの
・科学研究費報告書に掲載したもの
・未公刊の博士論文・修士論文の一部

次の論文は，未発表論文とせず，本誌への投稿は認めない。

・他の学会誌や協会誌に掲載したもの，投稿中のもの
・大学・学部・研究室の紀要等に掲載したもの
・市販雑誌に掲載したもの
・学会の proceedings など，会のあとで本にまとめられたもの

※剽窃，及び二重投稿は，厳にこれを慎むこと。発覚した際には投稿を無効とする。

3. 使用言語

日本語および英語とする。

4. 論文の種類

(1) 一般研究論文：著者のオリジナルな研究をまとめたもの。追究する研究課題の価値を当該研究分野に位置づけた上で，妥当性のある方法によって結果を報告し，十分な考察を加えることが求められる。

(2) 事例研究論文：実践的な研究および試行的な研究をまとめたもの。報告する価値のある研究課題や実践について，妥当性のある方法によって，結果を報告することが求められる。

(3) 展望論文：ある特定分野の最近の研究動向，今後の展望を著者の観点からまとめたもの。複数の論文を紹介するだけのものは展望論文とはしない。

5. 提出書類および様式

・A4版横書き原稿のMS Word及びPDFファイルを別紙と共にメールに添付して送付すること。

・別掲の投稿書式に従って執筆すること。

https://jasla.sakura.ne.jp/journal/ からテンプレート（.docx）がダウンロードできる。テンプレートを使って原稿を作成すること。（尚，採択された際には，別途詳細な本誌書式を送付する。）

・規定枚数（一般研究論文と事例研究論文は18枚，展望論文は21枚）厳守で執筆すること。

① 原稿

以下の項目を以下の順序で，38字（英語の場合は，スペース含む96字）×35行×18枚（展望論文は21枚）以内で整える。

全てのページにページ番号および行番号（連続番号）を付ける。

日本語論文

論文名
執筆者名および所属（査読の段階でジャーナル委員会が削除し匿名化する）
要旨（400字以内）
キーワード（5項目以内）
本文（図表，注，参考文献，資料を含む）
英語要旨（規定枚数内の最後の1ページ全てをこれに当てる）
　論文名
　執筆者名および所属
　要旨（200語以内）
　キーワード（5項目以内）

英語論文

論文名
執筆者名および所属（査読の段階でジャーナル委員会が削除し匿名化する）
要旨（200語以内）
キーワード（5項目以内）
本文（図表，注，参考文献，資料を含む）
日本語要旨（規定枚数内の最後の1ページ全てをこれに当てる）
　論文名
　執筆者名および所属
　要旨（400字以内）
　キーワード（5項目以内）

②別紙（以下の項目を，原稿とは別ファイルに記載する）

論文の種類，論文名，執筆者名，所属機関，連絡先（住所，メールアドレス）

謝辞・クレジット等は審査の段階では本文には記さないこと。

（採択された場合に記すために紙面に余裕を持たせて原稿を仕上げること。）

6. 掲載原稿の著作権について

掲載原稿については，著作権のうち，複製権，翻訳・翻案権，公衆送信・伝達権を第二言語習得研究会に無償で譲渡することとする。ただし，執筆者本人は，第二言語習得研究会の許諾を得ず，掲載原稿の複製，翻訳・翻案，公衆送信・伝達を行うことができる。

7. 投稿締切り

次号（第 28 号）掲載分は，2025 年 1 月 31 日（日本時間 23 時 59 分必着）を締切りとする。

8. 送付先

第二言語習得研究会 ジャーナル委員長　福田倫子　E-mail：jasla.journal.27.28@gmail.com

『第二言語としての日本語の習得研究』
Acquisition of Japanese as a Second Language

投稿書式

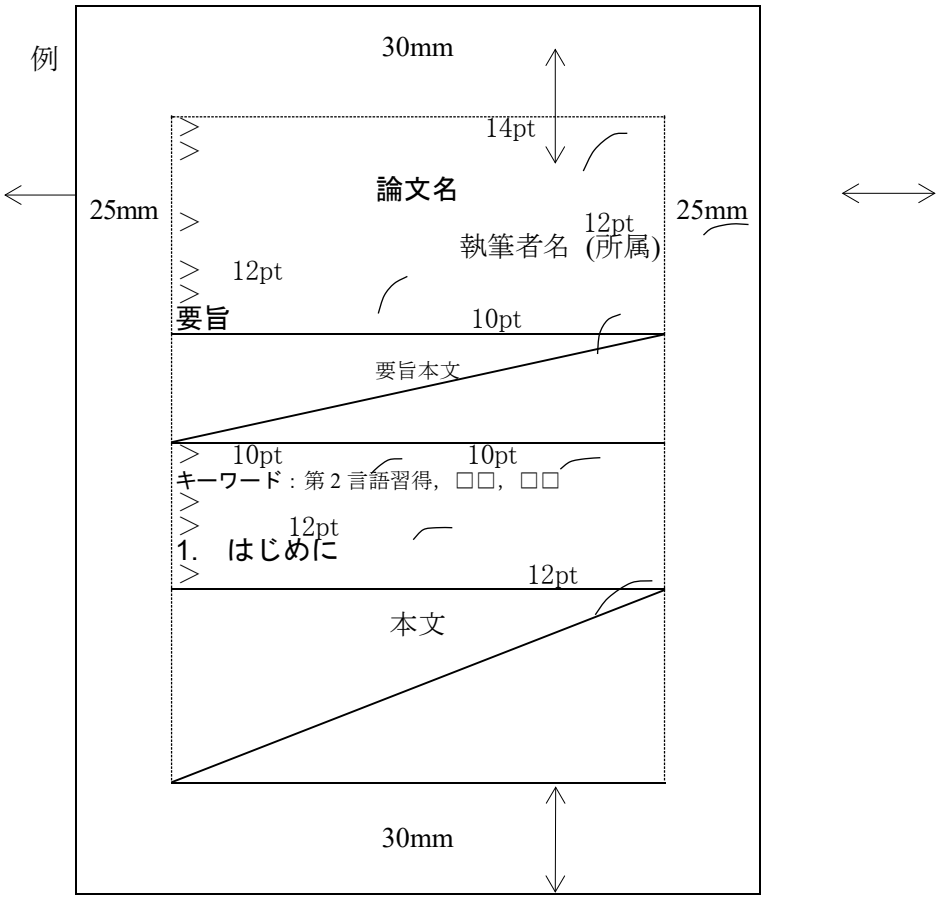
1. 原稿の書式
   - A4 版横書きワード原稿，38 字×35 行，余白：上下 30mm，左右 25mm
   - 日本語用フォントは MS 明朝，英数字用フォントは Times New Roman

日本語論文

論文名：14 ポイント（以下，14pt）（論文名の上を 2 行空ける）
執筆者名および所属：12pt
要旨：10pt（400 字以内，「要旨」という語の後で改行して記述）
キーワード：10pt（5 項目以内）
本文：12pt
図表中の文字：9pt 以上（タイトルは 10pt）
注：10pt
参考文献：10pt
英語要旨
　　論文名：14pt（重要語句の先頭を大文字にする）
　　執筆者名および所属：12pt
　　要旨：10pt（200 語以内，‘Abstract’という語の後で改行して記述）
　　キーワード：10pt（5 項目以内）

英語論文

論文名：14pt（重要語句の先頭を大文字にする，論文名の上を 2 行空ける）
執筆者名および所属：12pt
要旨：10pt（200 語以内，‘Abstract’という語の後で改行して記述）
キーワード：10pt（5 項目以内）
本文：12pt
図表中の文字：9pt 以上（タイトルは 10pt）
注：10pt
参考文献：10pt
日本語要旨
　　論文名：14pt
　　執筆者名および所属：12pt
　　要旨：10pt（400 字以内，「要旨」という語の後で改行して記述）
　　キーワード：10pt（5 項目以内）



2. 原稿の区切りと見出し

原稿は章，節，項などに区切る。

章の見出し番号は通し番号とし，行の左に置く。節の見出し番号は「1.1」「1.2」とし，項を設ける場合は，「1.1.1」「1.1.2」とする。

見出しの前には空行を 1 行入れる。

3. 図表

原則として，本文中の必要な位置に図表を入れる。

図表には「図 1」「図 2」「表 1」「表 2」等と 10pt でタイトルを付ける。

図表中の文字は，原則として 9pt 以上の大きさを使用する。

図表の前後には空行を 1 行ずつ入れる。

4. 表記

原則としてローマ字はヘボン式を用い，アルファベットは半角文字，数字は算用数字を使用する。

5. 引用・文献表示

引用・文献表示する時は，文中では「坂本（1993）」，「Bialystok（1981）」のように書き，論文末に参考文献の形で詳しく記す。（文中のカッコには原則として全角カッコを使用）
文献の著者が 2 名の場合には，日本語文献にはナカグロ「・」を，英語文献には「& 」を用いる。例：迫田・細井（2018），Gass & Ard（1984）
著者が 3 名以上の場合，日本語文献は「筆頭著者名＋他」と，英語文献は「筆頭著者名＋et al.」と記す。例：鎌田他（2009），Barkhuizen et al.（2013）
カッコ内で文献を複数提示する時などは，（鎌田他, 2009; Gass & Ard, 1984）のように記す。
直接引用してページ番号を記す時，著者名ともカッコ内提示では（Smith et al., 1999, pp. 20-21）のように，著者名の文中提示では「坂本（1993, p.127）」のように半角カンマで区切る。

6. 注

本文中に注を付ける場合は，該当箇所右端に上付き文字で通し番号「1，2，3 」を付け，注の内容は論文末に記載する。（脚注機能は使わないこと）
論文末においては，注を先に，参考文献を次に記載し，資料がある場合は最後に付ける。

7. 参考文献

参考文献は日本語文献，英語文献，中国語文献等の順にまとめる。
日本語文献は著（編）者名を 50 音順に，英語文献はアルファベット順に記載する。
同一著者による論文が複数ある場合は，出版年月順に記載する。
一つの文献の情報が 2 行以上にわたる場合には，2 行目以下を 2 字分下げる。
英語文献の記載方法は APA Manual 7th edition に準じる。具体例を下記に示すが，詳細，例外については APA Manual 7th edition（2019 年出版）を参照されたい。

鎌田修・山内博之・堤良一 (編) (2009). 『プロフィシェンシーと日本語教育』ひつじ書房.

迫田久美子・細井陽子 (2018). 「International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS): 日本語学習者の言語研究と指導のために」『英語コーパス研究』15, 133-149.

安田敏朗 (2020).「多言語社会の語り方」福永由佳 (編), 『顕在化する多言語社会日本―多言語状況の的確な把握と理解のために―』(pp. 58-80). 三元社.

Kubota, R. (2014). The multi/plural turn, postcolonial theory, and neoliberal multiculturalism: Complicities and implications for applied linguistics. *Applied Linguistics, 37*(4), 474-494.

Pavlenko, A. & Lantolf, J. P. (2000). Second language learning as participation and the (re)construction of selves. In J. P. Lantolf (Ed.), *Sociocultural theory and second language learning* (pp. 155-177). Oxford University Press.

Pennycook, A. & Otsuji, E. (2015). *Metrolingualism: Language in the city*. Routledge.

※論文名，書名は最初の語の語頭だけを大文字にし，誌名は各主要語の語頭を大文字にする。
※書名，誌名とその号数はイタリック。出版社の所在地の記載は不要。